

この本を読まれる方々に

にいがた県民教育研究所

木村隆利

職場に、地域に、学校にそして家庭に、競争と多忙が広がり大人も子どもも孤立が深まり人間らしい人間の交流が薄らぎおろそかにされつつあります。

加えて商品化の波は子どもをとりまく私たちの生活から、すべての人間のできごとをわがことのように思う暖い人間の心を奪おうとしています。

この本はこうした環境で、すべての子どもの命を、心を、発達をどうやって健全に育てたいかを提案しています。保育者、小・中・高の教師、大学の先生方そして保健婦・弁護士・医師(病院)の方の血のにじむような、すべての子を大切にす

- る実践と研究成果がくり広げられています。
- 教職員労働組合の「古いカラ」をぬぎすてたい方、子どもの人権を守りたい方は「一人ひとりの子を大切にす」シンポジウムを…。(「都教組」の実践を)
 - 子どもの命と発達を医療の面から保障しようという方々は長野中央病院小児科の方の熱い記録を…。

父母、教師、研究者、国民各層のすべての人に人間らしい子育て、教育、地域づくりの指針を方向づけている本です。

カバー版画

新潟県東頸城郡松之山町立松之山小学校

6年 草村 友明
